



Next is you

日体魂を受け継ぐ者

前向きに、たくましく、
スポーツの力、平和と命の尊さを
世界の未来に向けて発信していく

東京・世田谷キャンパスの正面玄関で私たちを見守り続けているのが「チャンス」と命名された像である。その姿を見ると自然と勇気が湧いてくる。そして、像を前にして日体生としての誇りをあらためて自覚した人も多いだろう。

「ポイントゲッターになるよりもチャンスメーカーになれ」。

そこには日体大スプリットが込められている。ラグビーのトライゲッターやポイントゲッターはゲームで最も目立つ存在である。しかし、日体大の学生は華やかさを求めるのではなく、チームのためにチャンスメーカーとしての役割に徹することを尊しとする。人を活かすのがチャンスメーカーであるとするれば、競技だけでなく、指導者・教育者、医療人、実業人として、社会から強く求められている資質と言えよう。

「チャンス」の像は1954（昭和29）年秋に設置された。「トライゲッターであるよりも、チャンスメーカーたれ!」というラグーメンのためのキャッチフレーズを、ラグビー以外のスポーツマン一般にも通ずるものにしようと意図して生まれたのが前述の標語であり、これを折に触れて学生たちに語ったのが栗本義彦先生（1897～1974）であつた。因みに彫像に刻まれた「チャンス」とは「チャンスメーカー」の略である。

確かにその姿、逞しく発達した上半身は、ラグーメンというより、体操競技、重量挙げ、レスリングの競技者を想像させる。これは制作の過程で、モデルがラグーメンから体操競技の選手に変わったことが背景にあったという。そして、2つの競技の選手を合作して1つの像に仕上げられたことで、結果としてあらゆる運動競技に通じる精神を具現化した日体大のシンボルにふさわしい造形となったのである。

昨今の情勢の中で、いかにしてチャンスを見出し、前進に貢献していくか。日体大スプリットの真価が問われている。

「チャンス」の像

日体大を
極める

Episode 1





想像力

▷コロナ禍により私たちは多くのことを考えさせられた。あたりまえの日常、人のつながりの大切さ、命の尊さ。あらためて医療の最前線で献身的に活動を続ける関係者に心から敬意を表したい。そして、不安の中でも自分の目標に向かって前向きに日々を過ごす日体生の姿をこの上なく頼もしく思う。

▷当然のことながら、これはわが国だけの問題ではない。今すぐには行動できないかも知れないが、世界に目を向けて、ともに手を取り合って課題を乗り越えていかなければならない。

▷不安に立ちすくむだけではいけない。今なにができるのか、なにをしなければいけないのか。自分の行動が社会にどのような影響を与えるのか。さらに、笑顔で五輪を迎え、その先の未来をどう描いていくか。大切なのは、自分の周囲の人々や今後の展望について、「想像力」をもって接し、考えることである。そうすれば、自分のとるべき行動も自ずと見えてくる。

学報NITTAIDAI (ニッタイダイ) 61号

発行日●2020年7月23日

発行●日本体育大学広報課

TEL 03-5706-0948

FAX 03-5706-0922

http://www.nittai.ac.jp/

制作協力●(株)図書出版

03

Special Contents

「新しい生活様式」に向けて

刻々と変化する事態にも柔軟かつ適切に対応できる力を

日本体育大学 学長 具志堅幸司

05・19

今だからできる事・今だからやるべき事 STAY HOME期間中の取り組みを紹介

—今、このときをポジティブに過ごす学生たちからのメッセージ—

07

Next is you 日体魂の聖火リレー

～日体魂を受け継ぐ者～

第13回 —2021年に向けてRe start「オリンピックを経験した教員から学生たちへ」—

東京大会は一つの集大成。

後輩に夢を託し、金メダリストを送り出す。

松本 慎吾 体育学部体育学科准教授 アスリート・指導者(レスリング)

自分が変わることで、まわりの人も

未来も、世界も変えられる。

村田 由香里 体育学部体育学科准教授 アスリート・指導者(新体操)

1秒1秒は平等。これをどう活かし、

高めるかによって差が生まれる。

岡田 隆 体育学部体育学科准教授 フィジカルトレーナー(柔道)

13

国際交流センターから世界の舞台へ飛び出そう

<国際交流センターの活動Vol.1>

国際交流センター **荒木 達雄** センター長・スポーツ文化学部スポーツ国際学科教授
交流協定校一覧 Overseas Partner Institutions

17

命、健康の尊さを伝える、経験豊富な新任教員の顔ぶれ

<新採用教員紹介>

かつ適切に対応できる力を」

●生命・健康の保護を第一義に

本年2月26日、新型コロナウイルス感染症の拡大が国内においても顕著になったことをうけ、「日本体育大学危機管理規程」に基づき、直ちに危機管理委員会を開催、あわせて、その対処にあたるべく危機対策本部を設置致しました。

間近に、大学にとって最も重要な式典である、卒業式・学位記授与式、入学式を控え、その対応を含めた基本的な考え方を第一報（「新型コロナウイルス感染症対策の基本方針」令和2年2月27日）として周知したところです。

当初、令和元年度卒業式・学位記授与式、令和2年度入学式については、その規模を縮小・簡素化し、実施することを前提に、次第や安全確保（感

染防止）の方策について、種々検討を進めておりましたが、中止という苦渋の決断をせざるを得ませんでした。

人生の大きな節目となる儀式を取りやめることは、卒業生・新入生はもとより、そのご家族そして我々教職員・在学生にとっても、たいへん辛い選択でした。新たな門出を皆で慶ぶ貴重な機会を失うことになりましたが、もし万一、本学が感染拡大のひとつの起点となってしまうたら、あるいは、かけがえない生命（いのち）が奪われるような最悪の事態を招いてしまったとしたら、その後悔は一生消えるものではありません。

わたしたち教職員にとってその最大の責務とは、すべての日体大生に拓かれた前途ある未来をしっかりと守り抜くことである、このときの判断は、そう考

えたからに他なりません。

●日体大の「叡智」を結集して

新年度迎え、入学式はもとより、さまざまな行事（イベント）や活動が変更・延期、あるいは中止を余儀なくされました。いずれも、学生・教職員の安全確保を最優先に、さまざまな制約のもとで、これまでとは明らかに異なる、「日常」とわたしたちは新たに向き合っていくことになります。

とりわけ、本年度前学期の授業は、その開始日を5月4日（月）に繰り下げ、全12週（回）とし、原則、通学を要しない非対面式の授業を初めて展開することと致しました。

本学の「Webサービス学生支援システム

学長

具志堅 幸司

「刻々と変化する事態にも柔軟



(nssu-passport: 略称 n・pass) のクラスプロフィールを主軸として、授業資料の配信や課題の提示(回収)をはじめ、小テストの実施、質問・問合せの受付(Q&A)、意見交換(クラスフォーラム)等を行い、対面式授業に劣らぬ教育の質を保証すべく、各授業担当者は、入念にその準備に取り組みました。あらゆる工夫を施し、学ぶことの面白さを学生に提供できるよう、多くの時間を費やし、新たな教材が創り出されています。

実技系科目では、この n・pass の他に、映像配信等(ビデオコミュニケーションツール他)を補助的に用いて、「動き」の詳細をより解りやすく伝えられるよう心掛けられ、6月29日(月)から一部で実施された対面式授業においては学生個々の知的好奇心に丁寧に応えられるよう努めています。

言うまでもなく、日体大に拡がる学問の大きな特色は、いずれも、「実践」で浮き彫りにされた問題について、緻密な分析と検討を加え、得られた新たな知見(理論)を再び、実践「現場」に還元す

るところにあります。

こうした『実践』と『理論』の一体化の試みは、本学のすべての取り組み(教育・研究・社会貢献・競技力向上など)の基軸となるものであり、それ故これまでも直接的な「知と技」の対面による教授(指導)にこだわり、奥深さや面白さ、醍醐味などの真髄を伝えてきました。

また本学は、「体育・身体活動・スポーツを通じた健康で豊かな社会・人づくり、国際平和の実現」という基本理念のもとに、人間の心身の可能性・活力ある身体を追究し、「生命の輝き」や「身体の躍動」を地球上のあらゆる場所と人びとのもとに届け、分かち合うことを目指しています。

体育スポーツ学、教育学、保健医療学の専門性から、直に接する機会を奪われ、「実践」の場も十分に確保できない状況は極めて残念であり、歯がゆさを感じずにはいられません。しかし同時に、試行錯誤を重ねながら、その真摯な姿勢が想像を遙かに超える新たな成果(叡智の結晶)をそれぞれに生み出してくれているものと確信しています。

●新たな「日体大」モデルの構築を見据えて

およそ50日間にわたって、本学キャンパスが所在する東京都、神奈川県にそれぞれ発出されていた緊急事態宣言及び緊急事態措置は、5月25日によりやく解除されました。

しかしながら、この状況が、いつ、どのように収束を迎えるのか、残念ながらその明確な答えを導き出すことはできません。引き続き、学生・教職

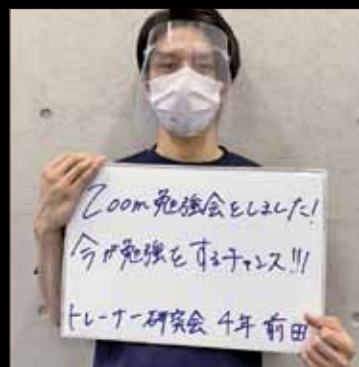
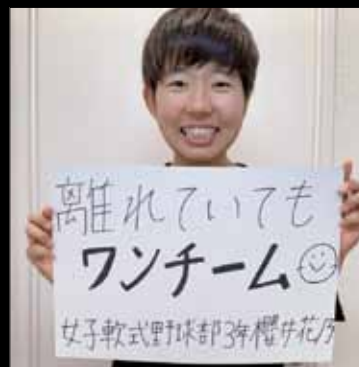
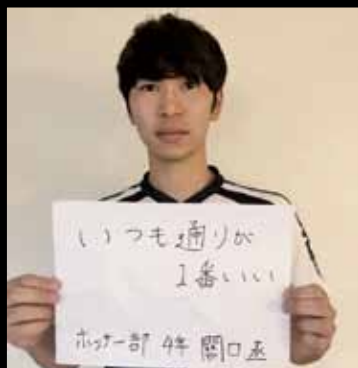
員の安全(生命・健康の保護)を第一義に、本学では、「新しい生活様式」のもとに、従前とは違ったかたちでそれぞれの活動を段階的に認めていく旨、決定しました。

その基本的な考え方は、「日本体育大学新型コロナウイルス感染症対策基本方針」及び「新型コロナウイルス感染症拡大防止のための日本体育大学活動指針」(令和2年6月9日)として報知するとともに、個別の活動(教育、研究、社会貢献等)についても、安全・安心に取り組めるように、それぞれガイドラインを策定したところです。

教育の在り方、研究の進め方、地域社会との繋がりが方、スポーツ活動への関わり方など、いずれも、本学が示す新たな姿(「日体大」モデル)として、その先駆けとなることを期待しています。

オリンピック・パラリンピック東京大会の開催まで、暫しの時間を要することになりました。既に内定を得た在学生、卒業生も少なくありません。本学は、オリンピック・パラリンピックの精神の実践と普及を推し進め、スポーツが有するさまざまな「力」を活用して、国際平和の実現に寄与することをその使命としています。

いまこそ、その価値や意義について根源的な問いかけを試み、新たなオリンピック・パラリンピックの在り方を示していくことは、日体大の大切な役割だと考えます。1年後、ここ東京に世界中から人種や宗教の壁を超え、多くの人びとが集い、真の「平和の祭典」として、無事開催されることを願うばかりです。



Next is you

日体魂の聖火リレー

～日体魂を受け継ぐ者～

13

アスリート・指導者（レスリング）

松本慎吾

（体育学部体育学科准教授）

現役時代、自らも最高の舞台を経験。

指導者として銀・銅メダリストを育て、

強化委員長として迎える東京では頂点の金を目指す。

――選手として臨んだ五輪を振り返って――

オリンピックはスポーツ選手にとって最高の舞台です。夢であり、目標でもありました。中学生の時、バルセロナ五輪で古賀稔彦選手の勇姿を見て、自分もこういう舞台に立ちたい、オリンピックで試合をしたいと思うようになりしました。柔道ではインターハイで2位に、一方、柔道の強化を目的で始めたレスリングでは国体で優勝しました。

柔道は中学・高校と続けてきましたが、レスリングは始めたばかりでした。国体の会場で恩師となる藤本英男先生に「オリンピックに行きたいならうち（日体大）に来なさい」と言われ、大学から本格的にレスリングに取り組みました。

初めて出場したアテネ五輪で得意技の「俵返し」で初勝利をあげたことは今でも鮮明に記憶に残っています。

――オリンピックを経験して変化したこと――

オリンピックに出場できたことで、今まで自分がやってきたことは間違ってたか？と自信になりました。オリンピックを目指す決めた瞬間から行動が変わりました。

実はアテネの前のシドニーでオリンピックに出場できる可能性があったのですが、わずかなポイント差で出場が叶わなくなりました。とても悔しかった。それから、アテネに絶対行くと決め、必死で練習しました。最終的には国内では頭1、2つ抜けて強くなっていたと思います。シドニーの悔しさ、アテネでの初勝利を経験し、本気になれば、行動が変わることを実感しました。

――指導者として心がけていること――

指導、強化をしていく上では環境作りを大切にしています。レスリングは対戦相手、練習相手が必要で、強い選手やうまい選手と練習すると確実にレベルが上がります。

さらにOBなど日本のトップクラスの選手

が日体大を練習拠点にしてくれ、現役大学生とともに練習する機会があります。そういう選手に接することは、練習だけでなく、普段の生活などに好影響を与えてくれます。

もう一つは学生にきつかけを与えることです。学生がきつかけを得て、自ら考え行動していくようにします。環境づくり、きつかけを与える、の二つに主眼を置いています。

――指導者としてよかったことは――

オリンピックをはじめ、大きな大会など、選手が目標とした大会に結びつけられたことが嬉しいですね。指導者というのは人間をつくることでもあると考えています。それが大きなやりがいでもあります。その上で、私が藤本先生から教わったことを次の世代に伝えたいとも考えています。将来、私の教え子が高校などの教員になるなど、いろいろなところで活躍してほしいです。そうすればレスリング界の大きな財産になるはずですね。

――オリンピックへかける思い――

東京大会は一つの集大成と考えています。2008年に現役を引退し、指導者に転向して2012年にロンドンで銅メダリスト、2016年リオ五輪では銀メダリストを送り出しました。これまで自分は選手としてメダルは獲得できませんでしたが、コーチとして選手を導いて結果を残せたのはとても嬉しいことです。銅、銀ときて、残るは金メダリストです。

東京オリンピックをグレイ・ローマンススタイル強化委員長として迎えるのは大きな意味があり、何かの縁であると思います。

――日体大の強み――

日体大はすべての層で人間力が優れていると思います。学生、教員ともに日本だけではない。



く、世界で活躍する人が多くいます。つまり、日体大にはトップアスリートが多く集まっているのです。

トップアスリートは競技のことを大切に考え真摯に向き合います。言い換えれば、競技のために何かを犠牲にできることができる選手がトップに立っているともいえます。そしてそういう選手の姿を見て応援する人も増えると考えます。そういう素晴らしい環境があるのが日体大の強みでもあると思います。

――困難な時代を迎えている選手、そして高校生へ――

大学では大きな大会、高校ではインターハイが中止になりました。ただ、どんな状況でも準備は怠ってはいけません。今のような限られた環境であっても準備はいくらでもできます。練習の計画を立てたり、どんな練習をすれば効果的かなどについて本を読んだりすることもできます。

逆に今は時間があるとも考えられます。この時間をいかに有効に使うか、次につながる準備ができるか、この先、成長できるか、また大きな差が生まれると考えられます。この期間があったから優勝できた、東京オリンピック・パラリンピックなどで金メダルが取れたと言えるような可能性を秘めています。今は実はチャンスでもあるのです。

東京大会は一つの集大成。
後輩に夢を託し、
金メダリストを送り出す。



Next is you
日体魂の聖火リレー

◆松本慎吾先生からエールをいただきました。

日体大の学生の中には、自分の能力を発揮できていなかったり、やりたいことができていなかったりなど、少しもったいないと感じる学生もいます。日体大にはスポーツ界でトップの人が多くいます。トップの人と接すると新たな道が開けてくることもあります。何も遠慮することはありません。貪欲にいろんなことにチャレンジしたり、先生の話を聞きに行ったりしてほしいです。いろんな機会を利用し、自分の成長につなげてほしいと強く思います。

◆プロフィール

松本慎吾 (まつもと しんご)

体育学部准教授。日本体育大学大学院修了。日本レスリング協会 男子グレコローマンスタイル強化委員長。座右の銘は「寧静致遠」。自分の時間を大切にするのがリラックス法の一つ。

村田 由香里

（体育学部体育学科准教授）

好機をつかむにはたゆまぬ努力が必要。

研鑽と訓練を続けていけば、

必ず結果はついてくる。

——オリンピックという存在

新体操を始めた頃、オリンピックは夢や憧れでした。ところが中学3年生の時に出了大会がアトランタ五輪の日本代表を決める試合で、そこで3位に入りました。2名がオリンピックに出られ3位は補欠でした。そこでもう少し頑張ればオリンピックに出られると理解し、オリンピックが急に近い存在になり、オリンピックに出ると言うことが目標に変わりました。

新体操の場合は、オリンピックの度にルールが改正されます。芸術性が重視されたり、技が重視されたりと、少しずつ評価基準が異なります。私は技に重点をおき、ミスなく演技することを得意としていましたが、シドニー、アテネオリンピックの時代のルールと自分の持ち味が上手く重なり、オリンピックに出場できたと思います。もちろん、誰にも負けないくらいの練習は積んでいました。

——オリンピックに出て変化したことは

オリンピックは選手村に滞在し、そこで競技を超えていろいろな日本代表の選手と言葉を交わすことができ、応援したりされたりと、「皆一緒に戦っているんだ」と言う心強い気持ちになりました。

現役を引退し普及や指導をする立場になると、いろいろな方からオリンピックのことを聞かれ注目されていることを実感し、ますますオリンピックの特別感と存在の大きさを感じるようになってきました。そう思うとオリンピックに出てよかったと心の底から思います。現役のときは、オリンピックは大きな大会で目標ではありましたが、一つの通過点で、オリンピックが終われば次の大会と目標を切り替えていかなければなりませんでした。

——指導をする上で心がけていることは

選手によつて手足の長さ（体格）、性格、競技を続けてきた環境などは違います。さらに

新体操に対して感覚的に捉えるのか、理論的に理解するのか、あるいは見様見真似でやってきたのかを十分理解し、その上で一緒に相談し納得してもらい、練習をするようにしています。

自分のやり方に自信がないわけではありませんが、指導方法に正解はないと思っています。今後、今教えている選手が指導者になったとき、それぞれの選手に合った指導ができる様になつてほしいと思っています。

私は単に新体操の技術だけを教えているのではなく、選手が自ら考え行動に移すことで、達成感や自信を手にしてほしいと思い指導しています。

——印象に残っている出来事は

2007年の全日本新体操選手権は大会7連覇がかかっている引退試合でした。その試合では観客席に私の名前の横断幕が掲げられていて、多くの人が応援してくれる姿が見えました。結局、7連覇は叶いませんでしたが、順位以上に心に響き、新体操をやつてよかったと思いました。

オリンピックではシドニーは団体で出場したので、みんなで気持ちを高めていくことができ、強かったです。次のアテネは個人戦のみの出場でコーチの秋山エリカ先生と二人きりでしたが、他の競技の選手と話す機会が多く、日本の選手皆で戦っている、自分一人じゃないという印象がありました。

——日体大の強みとは

日体大はそれぞれの競技の日本代表のコーチが本学の教員であつたり、部活の指導に携わっています。指導者がトップを経験していて、その指導者に指導してもらえ、また触れ合えるのはすごく恵まれているといえます。

教員だけではなく、学生もトップの人が集まつてきて、お互いが競い合つてより高いレベルを目指しています。それぞれの部活内でも

そうですし、競技を超えても競争があります。日体大は互いに競い合い、励まし合える良い文化があります。



——東京オリンピックに向けて

私が直接選手を指導することはありませんが、強化本部員として、ロシアをはじめとした強豪国などをうまく味方にする環境整備をしています。練習拠点をロシアに置いているのもその一貫で、昨年、世界選手権で金メダルを獲得することができたのもその成果であると考えられます。東京大会でも結果を出す決意です。

——困難な時代を迎えている選手、そして高校生へ

私が現役のとき、挫折もありましたが、苦しい思いもしました。世の中には自分の思い通りにならないことも多くあります。ただ、思い通りにならないことについて、それでいいにしていればいいと思います。この困難があつたから、あの辛い気持ちがあつたからこそ今があると言える未来にする為に、前向きに取り組んでほしいと思います。

今大変でも、充実した時間を過ごしていけば、いろいろな辛いこともいい思い出に変わる時がきます。

私もとてもつらく苦しい試合がありました。それを乗り越えたからこそオリンピックに出られたと今は確信しています。辛い状況が一生涯続くわけはありません。物事をしっかりと受け止め、今自分ができることを頑張つていってほしいと思います。

自分が変わること、
まわりの人も
未来も、世界も
変えられる。

Next is you
日体魂の聖火リレー

◆村田由香里先生から
エールをいただきました。

人生では自分で変えられることと、変えられないことがあります。人の気持ちや社会の状況がそうでしょう。今の世の中を考えると、大学に入学して人間関係に悩んでいる人もいられるかもしれません。しかし、変えられるものもあります。それは自分の気持ちと自分の行動です。自分ができるところを徹底的に頑張れば、まわりも、そして未来も必ず変わります。変えられないことでグズグズしないで、自分から変わっていきましょう。

◆プロフィール
村田由香里(むらた ゆかり)
体育学部准教授。日本体育大学大学院修了。
日本体操協会 新体操ナショナル個人強化本
部員。アテネ五輪に新体操団体、シドニー五
輪に個人で出場。1歳8カ月の子供と遊ぶのが
フレッシュ法。コロナ禍で日常の大切を痛感
している。



Next is you

日体魂の聖火リレー

～日体魂を受け継ぐ者～

13

フィジカルトレーナー（柔道）

岡田 隆

（体育学部体育学科准教授）

世界舞台でトップアスリートたちを間近に見てきた。
そして、自身もトレーニングを実践者する立場から
高みを目指す選手たちに向けて本質を語る。

——リオ五輪柔道で強化スタッフとして
帯同して

選手たちはリオの選手村ではリラックスしているように見えました。しかし、いざ会場で試合に臨むと緊張しているようで、少しピリピリしているように見受けられました。世界選手権などの大きな大会ではありがちなことですが、オリンピックはそれ以上に感じました。選手の身体を見るのが私の任務ですが、客観的に見ても今が一番のピークであり、「何も心配することはない。だから自信を持ってオリンピックのためをやってきたことを発揮してほしい」と伝えました。それに選手たちは見事に応えてくれました。

——トレーニングで心がけている点

トレーニングでは具体的な方法論ではなく、競技に向かう思考などを伝えています。一言で言うと、人生は時間だと理解することです。どんな人にとっても時間は有限です。1分1秒はどんな人にも平等です。だからその1分1秒をどう活かし、どう高めていくかによって差が生まれてきます。毎日、ほんの少しでもいいので必ず成長する日に出ることが大事です。オリンピックに出場できるか否かに関係なく1分1秒を大事にしないと成長は見込めません。特にオリンピックに出場するような選手はそういうことができる人だと思っています。生まれながらにそれほど差はなく、その後の生き方が大事だと思います。

また選手に接する時は、いいところも見て評価し褒めることもしています。いい時間を過ごすことが成長につながると思っています。

——印象に残っている選手、出来事

73キロに大野将平という選手がいます。

大野選手は世界選手権、リオ五輪でチャンピオンになるのを間近で見たのですが、大野選手の筋肉が隆起した身体を見たとき、あまりの凄まじさに言葉を失いました。同時にこの人は金メダルを取るべくして取ったと確信しました。

こういう世界トップレベルを知り、ともに戦う選手たちが世界選手権やオリンピックなどで金メダルを取るなど目標を達成したときにやっていたよかったと思い、幸せを感じます。そこに達するまでは大変な事もたくさんありますが、それだけに勝利の喜びはとて大きく、人生を豊にしてくれます。

——トップアスリートになる選手とは

柔道の場合は、強い弱い相対的な評価になると思います。A、B、Cという選手がいたらA、B、Cともストロングポイントが違い、それぞれに個性があります。その個性を最大にする人がトップアスリートになっていると思います。個性を最大化するためには、自分を知らなければなりません。

私は指導者ですが、ボディビル選手としても活動しています。その立場で考えた時、トップクラスの指導者は常にトップのトレーニングの実践者です。だから私も自身も常に実践者であり、上のレベルを目指しています。自分の信念を持って成長を続けようとする人こそ、トップアスリートになれると確信しています。

——日体大の強み

日体大は実技の指導力が高く、そしてスポーツサイエンスに関しても非常に高いレベルにあります。その二つが融合しているのが日体大の強みです。

また、スポーツは身体を動かす実践的な



ことや、競技として他と競うこと以外にも大事なことが学べます。それが人間関係です。スポーツは一人ではできません。チームを組む仲間、対戦する相手など多くの人がいて協力したり、リスペクトしたりと、スポーツは社会の縮図でもあるといえます。それを学べるのも日体大の大きな強みです。これらのことは非常に有益で、それを卒業後に社会生活に活かせば、「ビジネスアスリート」として活躍できると思います

——困難な時代を迎えている選手、そして高校生へ

今、アスリートたちは本格的に身体を動かしてトレーニングができない状況にあると思います。しかし時間は十分にあります。ここで何をやるかで将来大きな差がつきます。一つ例をあげると本を読んで脳をアップデートすることです。本には他者の考え方や行動などが書かれています。その考え方を取り込み、考え方を変えると行動が変わり、結果、身体が変わります。脳を変え、新たな思考をインプットすると、今後トレーニングをスタートするときこれまでとは違う取り組みができるようになり、新しい自分の可能性に向き合えます。これはアスリートに限ったことではありません。

今こそ無駄に時間を過ごすのではなく、やれることをやるのが大事で、大きく差をつける今はチャンスでもあるのです。

1秒1秒は平等。
これをどう活かし、
高めるかによつて差が生まれる。



Next is you
日体魂の聖火リレー

◆岡田隆先生からエールをいただきました。

オリンピック・パラリンピックが来年に延期され不安になっている人も多いでしょう。自分でコントロールできないことを思い悩んでも意味はありません。1分1秒を大切に前に進んでいきましょう。また、今、自粛生活が続く運動不足で肥満に悩む人が増えています。今後、その問題を解決するためにも日体大で学んだことが必ず求められる社会になります。そのときのためにも社会に要請される人間になれるよう多くのことを学んでほしいと思います。

◆プロフィール

岡田隆(おかだ たかし)

体育学部准教授。日本体育大学大学院修了。日本オリンピック委員会強化スタッフ(柔道)、柔道全日本男子チーム 総務コーチ、兼体力強化部門長、日本ボディビル・フィットネス連盟 ジュニア・マスターズ強化委員長「バズーカ岡田」の異名もあり、テレビや雑誌など多くのメディアでも活躍中。

世界の舞台へ飛び出そう

国際交流センターは、日体大の海外留学、研究、スポーツ交流、国際貢献の拠点として機能しています。

国際交流・協調がますます重要になる時代に、皆さんの視野を広げるきっかけとなるよう「国際交流センター」の取り組みを4回シリーズで紹介します。

第1回は荒木達雄センター長に国際交流センターの概要や海外に目を向けるためのアドバイスを聞きました。



国際交流センター センター長
スポーツ文化学部スポーツ国際学科

荒木 達雄 教授

国際交流センター設置の経緯についてお教えください。

日本体育大学は基本方針を「選手強化」「ワンファシリ」、そして「国際化」としました。そのことを踏まえ2014年に国際交流を推し進め、世界で活躍できる人材の育成のために設置されたのが国際交流センターです。

国際交流センターの設置前は庶務課が対応していましたが、今後、グローバル化が加速することが予測され、本学も国際化に力を入れるために独立した組織を作り、専門の職員を配置することにしました。そして今まで以上に学生の留学を拡大し、海外からも多くの学生を受け入れることにしました。当然、2020東京オリンピック・パラリンピック(2021年開催予定)を視野に入れた動きでもあります。

国際交流センターではどういう取り組みを行っていますか。

まずは、海外の大学やスポーツ施設などと学術・スポーツ交流をする留学です。そしてもう一つがJICA海外協力隊への派遣です。本学とJICA(国際協力機構)との関係は深く、JICAの設立当初から本学の卒業生が開発途上国へ行き、そこでスポーツを教えていた歴史があります。2014年に本学はJICAとボランティア事業(青年海外協力隊・日系社会青年ボランティア)に関する覚書も締結しています。

つまり海外との学術・スポーツ交流とJICA海外協力隊を中心に展開しています。

ちなみに留学は海外の大学におけるスポーツやスポーツシステムを学ぶことを中心とし、JICA海外協力隊は本学で学んだスポーツに関することを開発途上国で指導したり、日本の文化を伝えたりすることです。学ぶと、教えるの二つのベクトルに向いています。

海外との交流のためには英語力が必要となります。そこで学生の英語力向上のため、外国人講師と気軽に英語で会話できるグローバルカフェ、キャンパス英



国際交流センターから

会話レッスン、TOEIC対策講座、そして留学生のための日本語レッスンなどのプログラムが用意されています。

——海外活動に興味がある学生は、どんな準備や心構えをしておけばよいでしょうか。

まず、どの国に行つてどんなことを学びたいかを決めることが重要です。さらに海外交流の基本は英語ですので最低限の英語力は必要になります。TOEICは400点以上で、日常会話ができることは必須です。また、日常の勉強もおろそかにしてはなりません。

海外派遣は希望すれば誰もがが行けるものではありません。英語力、学業成績など総合的に判断して派遣を決めます。ただ留学するために特別に必要なことはなく、日々の授業を中心として学業と英語の学習、もちろんクラブなどの活動などに励むことが大切です。

——センターの利用方法やサポートについて教えてください。

本学の学生であれば誰でも利用できます。留学、JICA海外協力隊、海外に興味があればどんどん来てください。そこで、あらためてどんな国に向いているか、留学やJICAの活動はどんなことをするのかなど、いろいろなアドバイスを受けることができます。

また、英語力に関してはTOEICの対策なども相談できます。TOEICテストもキャンパス内で行つていたので、わざわざ試験会場に向く必要はありません。英語に興味があつて能力を高めたいと考えている学生にとっては、確実にスキルを磨くことができる環境が整っています。

2020年4月からは東京・世田谷キャンパスだけでなく横浜・健志台キャンパスの9号館4階事務

室にも国際交流センター員が配置されました。是非活用してください。

——海外活動に参加する意義は何でしょう。また、海外交流をする際に大切なことは何でしょう。

近年、留学など海外に出る学生が少なくなつていると言われています。今はインターネットで世界の情報が入り、様々な映像を見ることができるので行つたような感覚になるのかもしれませんが、今年は例外ですが、世界から多くの人が日本を訪れています。そういう人とコミュニケーションを取ると、インターネットでは知り得ない情報や文化などを知ることができ、さらに海外に出かけると思わぬ体験もできます。それはインターネットなどでは絶対体験できないことです。

海外交流をする際には、事前にその国の習慣や文化を学んでおくことは最低限が必要です。その上でマナーを守ることも肝要です。基本は相手の国や人々をリスペクトすること。日本できちんとした生活ができていれば問題はないでしょう。

——国際交流センターの今後の展望や課題などをお聞かせください。

センターが開設され6年が経過しました。当初8団体だった提携先が36に増えました。ここまで増えたのは大きな成果で、現在オセアニアを除いて4大陸に提携校が存在します。

今後は、新たに何か始めるのではなく、今行っていることをより充実させいくことを課題としています。長期だけでなく短期でもいいので海外に行つていろいろな体験をしてもらう学生を増やしたいと考えています。

また、本学に留学する場合も、個人ではなくグループで来校してもらうことも考えています。

——最後に日体大の学生へメッセージをお願いします。

国際化というのは外国のことを学ぶものだと考えている人も多いと思います。確かにそういう面は大事です。それが同時に日本を知ること、日本に素晴らしいところが多くあります。

海外に行くと、こちらがその国のことを聞くより日本のことを多く聞かれます。まず日本のことをしっかり理解し、日本のいいところを知つた上で、日本にない部分や、日本より優れていることを知り、取り入れることに海外交流の本質があると思います。英語を話して、外国のことを知るだけが海外交流ではありません。

海外交流は自分を高め、人間の幅を広げてくれます。まずは国際交流センターの門を叩いてください。みなさんを心からお待ちしています。



荒木 達雄

(あらか たつお)

国際交流センター長。スポーツ文化学部教授。日本体育大学卒業。FIG(国際体操連盟)Gymnastics For All 委員会副委員長。日本体操協会一般体操委員会委員長。ドイツスポーツ大学ケルンに留学後、同大学で6年間サマーコースを担当する。現在も講義や会議への出席で年に3〜4ヶ月海外で過ごす。



交流協定校一覧

Overseas Partner Institutions

世界を舞台に積極的、かつ広い視野を持って活動できる人材育成をめざし、
交換留学制度（学生・教員）、スポーツ交流、海外研究への
派遣協力などを実施しています。

In order to develop our people so as to be internationalized, that is, very active in international contexts,
and having broad perspective, we provide the following programs: international exchange programs (students / teachers),
sports exchange programs, and joint research with overseas organizations.



2019年8月 メリーランド大学ボルチモアカウンティ校と
交流協定締結



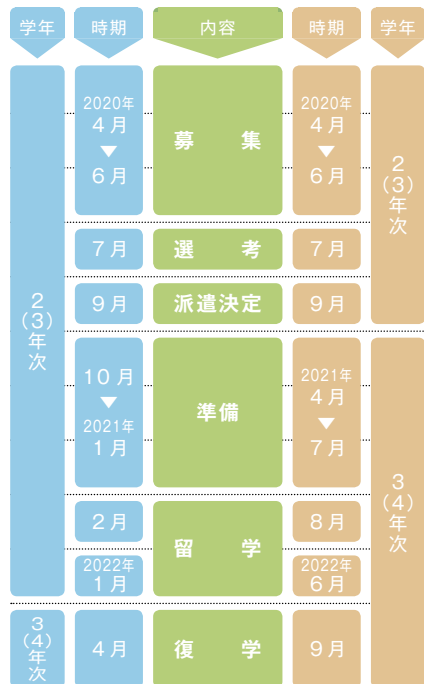
2019年8月 ウィンザー大学と交流協定締結



2020年3月 フランシュ・コンテ大学交流協定締結



交換留学スケジュールモデル



※8月・2月派遣ともに、応募期間は4～6月の一度のみとなります。ご注意ください。

- 【応募資格】**
- ①学部2年生以上、および大学院に在籍する正規学生（留学生は除く）
 - ②本学教員の推薦必須
※語学研修の場合は不要
 - ③TOEIC400点、もしくは英検2級相当以上※一部を除く

【派遣人数】 原則各校 1～2名（交換留学のみ）

【選考方法】 書類選考と面接（交換・短期留学は英語による面接）

【費用】 本学交流協定校先に留学する場合は、学費免除。（語学研修などは除く）
※費用は交流協定校一覧参照

－ 奨学金について －

大学で加入している日本学生支援機構の奨学金は休学中は適用されませんので、渡航前に受給停止の手続きが必要になります。なお、休学中も受給できる奨学金については事前申請が必要になります。詳細は国際交流センターにお問い合わせください。

【休 学】 交換留学のみ休学要。（在籍料免除）
語学研修・短期留学については夏季・春季休暇中に行うので休学は不要。

【単 位】 留学先で取得した単位は本学で互換可能な場合もあるので、希望する方は留学先の成績表を必ずお持ちの上、国際交流センターにお問い合わせください。

【交換留学】1年間休学（期間：10ヶ月）※状況に応じて期間の変更も可能です。

※寮費込・渡航費別

学校名	国	言語	費用目安
アジア			
北京体育大学	中国	中国語・英語	70万～
上海体育学院	中国	中国語・英語	70万～
国立台湾体育運動大学	台湾	英語	70万～
国立体育大学(台湾)	台湾	中国語・英語	70万～
慶熙大学校 体育学部	韓国	韓国語・英語	70万～
龍仁大学校	韓国	韓国語・英語	70万～
国立韓国体育大学校	韓国	韓国語・英語	70万～
モンゴル国立体育大学	モンゴル国	モンゴル語・英語	70万～
ウズベキスタン体育大学	ウズベキスタン	ウズベク語・英語	ASK
ヨーロッパ			
ドイツスポーツ大学ケルン	ドイツ	ドイツ語・英語	120万～
バラツキー大学 体育科学学部	チェコ共和国	チェコ語・英語	60万～
リンネ大学 社会科学学部	スウェーデン	スウェーデン語・英語	120万～
リトアニア体育大学	リトアニア	英語	60万～
スタフォードシャー大学	英国	英語	120万～
南米			
カンピーナス大学 体育学部	ブラジル	ポルトガル語・英語	120万～

【短期】夏季・春季休暇中派遣（期間：2～4週間）※状況に応じて期間の変更も可能です。

※寮費・渡航費別

学校名	国	言語	費用目安
アジア			
北京体育大学	中国	中国語・英語	ASK
国立仁川大学校	韓国	韓国語	7万～
モンゴル文化教育大学	モンゴル国	モンゴル語	7万～
マナブラヒナー国際大学	インド	英語	7万～
フィリピン大学ディリマン校	フィリピン	英語	7万～
チュラロンコン大学	タイ	タイ語・英語	7万～
カトマンズ大学	ネパール	ネパール語・英語	7万～
ヨーロッパ			
オレロップ体育学校	デンマーク	英語	4万/1週間（寮費含む）
バラツキー大学 体育科学学部	チェコ共和国	チェコ語・英語	ASK
リンネ大学 社会科学学部	スウェーデン	スウェーデン語・英語	35万～（寮費・渡航費含む）
スタフォードシャー大学	英国	英語	ASK
リール大学	フランス	フランス語	ASK
フランシュ・コンテ大学	フランス	フランス語	ASK
南米			
カンピーナス大学 体育学部	ブラジル	ポルトガル語・英語	25万～（寮費・渡航費含む）

【語学研修】夏季・春季休暇中派遣（期間：3～6週間）※状況に応じて期間の変更も可能です。

※寮費・渡航費含む

学校名	国	言語	費用目安
アジア			
慶熙大学校 国際教育院	韓国	韓国語	18～28万（3 or 6週間）
ヨーロッパ			
スタフォードシャー大学	英国	英語	40万～
北米			
オレゴン大学	米国	英語	50万～
ウィンザー大学	カナダ	英語	40万～
メリーランド大学ボルチモアカウンティ校	米国	英語	60万～（4週間）

経験豊富な新任教員の顔ぶれ

熱い思いを抱く皆さんを、温かく、ときには厳しく導いてくれます。未知の感染症への不安が続く中、人々の健康・安全への志向がますます高まっています。

日々を振り返り、
着実に成長を続けてほしい



朝日 茂樹

(あさひ しげき)

保健医療学部

整復医療学科大学院教授

研究テーマ：欧米各国の柔道整復師、WHOが提唱するJudo Therapistと比較し今後どのような資質が求められるのか、それに適した卒前教育制度はどうあるべきなのかをさまざまな視点から総合的に研究しています。

学生時代の思い出：医学と剣道のみ

日体生へひと言：毎日寝る前に、以下の5つを思い起こしてください。「1.誠実に背いた点はなかったか?」「2.言行不一致のところはなかったか?」「3.気力に欠ける動作はなかったか?」「4.努力することに心残りはなかったか?」「5.怠けてものぐさに一日を過ごしていなかったか?」。

こんな人(趣味)：剣道教士7段、全日本剣道連盟上級社会体育指導員(共に汗をかき、焼き鳥とビールで一杯やるのが人生至福のときです)

①東京都／②元WHO緊急人道部調整官 国連OCHA災害担当顧問 大学院では運動器整復医療学担当 柔道整復指導者のための人体の構造と機能特講(1年)、柔道整復指導者のための人体の構造と機能特講(1年)／③弘前大学医学部医学科卒、日本脳神経外科学会専門医・評議員、日本救急医学会、全日本剣道連盟医科学委員、日本体育協会公認スポーツ医、2014年読売新聞海外 医療功労賞／92年の中米ニカラグアの大地震で国際緊急救助隊として派遣されて以来、20年以上、途上国での災害緊急医療に携わってきた経歴を持つ。東日本大震災においても東北新幹線車両と白河市土砂崩れ現場で救護活動を行う／前 保健医療学部救急医療学科長④博士(医学)(東京女子医大)

全員で全力で!
パワーを与え合おう



稲川 郁子

(いながわ いくこ)

保健医療学部

整復医療学科准教授

研究テーマ：柔道整復師という職業を教育学や社会学の枠組みから理解していく研究をしています。その他、柔道の「形」に関する研究を行っています。

学生時代の思い出：子どものころから柔道一直線でしたが、高校時代に膝を大けが。大学では柔道衣など脱ぎ捨て女子大生を謳歌するつもりがなぜか足が勝手に柔道場へ。気づけば男だらけの柔道部に入部、雑巾のように投げられていたら気の毒に思ったらしい女子が徐々に集まり女子部設立、インカレ出場。柔道も勉強も遊びも全力の学生時代でした。

日体生へひと言：着任早々のこの状況、この文章を書いている6月現在、実はわたくし、まだ一度も日体生と顔を合わせていません。それでも、慣れない・拙いオンライン授業後に、会ったこともないセンセイである私に、アツかったりとほけてたりのレスポンス。改めて、教員というのは学生にパワーをもらう存在なのだと感じています。早く会いたい!

こんな人(趣味)：未登頂?静岡県民なのに?と挑発されて以来、3年連続で富士踏破。今年は開山せず、連覇途切れ。

①静岡県／②運動器損傷治療学総論、運動器損傷の検査・測定法実習I、柔道整復指導者のための教育原理／③日本福祉大学社会福祉学部社会福祉学科卒、明星大学大学院人文科学研究科教育学専攻博士後期課程修了、医療法人社団宏友会栗原整形外科柔道整復師、大東文化大学学生支援センター職員(スポーツ・健康科学部兼担講師)、常葉大学健康プロデュース学部健康柔道整復学科准教授／④博士(教育学)(明星大学)

社会に出る前に「志」を
しっかりと養ってほしい



上倉 将太

(かみくら しょうた)

保健医療学部

整復医療学科准教授

研究テーマ：障害予防を目的とした動作解析や、運動療法の効果が主な研究テーマです。アスリハのみならず、競技力向上に貢献できる競技に特化した機能的なトレーニングを検討します。

学生時代の思い出：弱小でしたが、部活動の主将を務めながら、アルバイトを2つ掛け持ちして、余暇活動も積極的でした。それでも絶対に授業科目は取得していました。悔いがなかったと思うやり切った学生生活を送ったと思っています。

日体生へひと言：大学4年間は貴重な時間かつ一瞬です。その時間で、日体大生として、これからの社会に出る為の「志」をしっかり養って下さい。嫌なことや辛いことは自らは鍛える糧です。本学では、学業はもちろんのこと、他では経験のできない部活動や研究を通じて、敢えて厳しい道を歩める事を楽しんで下さい。共に進みましょう。

こんな人(趣味)：スポーツ観戦と自分のサポートしている選手の応援

①茨城県／②運動学、運動器損傷治療学実習IV物理療法学、アスレティックリハビリテーションI／③茨城県立医療大学保健医療学部理学療法学科卒、筑波大学体育研究科修士課程スポーツ健康システムマネジメント専攻修了、順天堂大学スポーツ健康科学研究科博士後期課程修了、船橋整形外科理学療法診療部理学療法士、植草学園大学保健医療学部理学療法学科講師／④博士(スポーツ健康科学)(順天堂大学)

目標に向かって全力で、
前向きな気持ちで



鴻崎 香里奈

(こうざき かりな)

保健医療学部

救急医療学科助教

研究テーマ：主に骨格筋や神経を対象として、運動、疾患や加齢変化によってどのように影響を受けるかを検証しています。得られる成果をスポーツ現場や社会へ還元することを目指しています。

学生時代の思い出：学部時代は資格取得のために仲間とともに勉強に励んでいました。出身大学は某テーマパークの近くにありましたが、結局1回も行かずに終わっただけ最後まで勉強三昧でした。当時は必死でしたが今思えば楽しかったです。大学院時代は、自分の興味を持ったテーマに取り組み充実した研究生活を送っていました。

日体生へひと言：大学生活の4年間は長いようであっという間です。目標に向かって全力で且つ楽しい日々をすごしてください。今、これまでに考えたこともないような事態が世界中で起こっていますが、悲観的にならず乗り越えていきましょう。

こんな人(趣味)：柔軟剤集めとそれを試すこと

①千葉県／②生理学、スポーツ生理学、スポーツ研究B／③日本体育大学大学院 体育科学研究科 健康科学・スポーツ医科学系 博士前期課程、日本体育大学 スポーツトレーニングセンター助教、日本体育大学大学院 体育科学研究科 健康科学・スポーツ医科学系 博士後期課程、日本体育大学 体育研究所 助教 ④博士(体育科学)(日本体育大学)

経験を通して
自分の感性を高めてください



小林 喜之

(こばやし よしゆき)

保健医療学部

整復医療学科講師

研究テーマ：柔道整復学領域における外傷や障害の病態及び受傷機転の解明、スポーツ外傷や障害の発生時の動作解析をテーマとしています。

学生時代の思い出：当時、柔道部に所属しておりましたが、選手として結果を出す事はできませんでした。しかし多くの仲間にもまれ、柔道の楽しさと生涯続けられる喜びを知る事ができました。また総務部を兼部していた時もあり、日体フェスティバルや実演会の運営等にも携わる事ができ、充実した学生生活を過ごしていました。

日体生へひと言：何事にも目的意識を持ってチャレンジして欲しいです。上手くいかなくても過程が次に繋がり、いつか役に立つ事があると思います。また何事にも興味を持てるように、色々な事を体験、経験して自分の感性を高めて下さい。

こんな人(趣味)：身体を動かす事が好きです。

①埼玉県／②軟部組織損傷II、整復治療学実習III、柔道整復術の適応II／③日本体育大学体育学部武道学科卒、日本体育大学医療専門学校専任講師、昭和大学医学部生理学講座生体制御学部門特別研究生／④博士(医学)(昭和大学)

命、健康の尊さを伝える、

保健医療学部には10名の新任の教員を迎えました。先生方はそれぞれの豊富な経験を活かして、医療人としての知識や使命感を皆さんに伝えます。人の役に立ちたいと先生方から多くのことを吸収し、安心して暮らせる社会、スポーツを楽しめる環境づくりに貢献できる人材を目指しましょう。

学生時代を「挑戦心」をもって
過ごしてほしい

白石 聖

(しろいし きよし)

保健医療学部
整復医療学科教授

研究テーマ：運動器の健康増進に主眼を置きつつ、骨格筋の代謝・循環動態およびこれらに影響を及ぼす関節運動や身体のアライメントとの関係について研究しております。

学生時代の思い出：大学生時代は整形外科医院での研修や、オーストラリアでの足病医学の研修に参加していました。柔道整復という伝統的な医療にバイオメカニクスを基礎とする足病医学の技術を導入することに興味を持っていました。

日体生へひと言：進むべき道を選ぶ時は常に悩まされます。いくら考えてもその時点ではどれが正解か分からないことが殆どです。しかし、精一杯悩んで選択した道をひたむきに歩めば、その道は後に「正解の道」となります。大学はこうした決断や歩みを支えてくれる人と知識が豊富な場所です。学生という時間を少し挑戦心をもって過ごしてください。

こんな人(趣味)：家系ラーメン発祥の地、横浜で様々な家を味わうこと、特に個人経営店。植物の観察。

①埼玉県／②骨損傷Ⅰ、骨損傷Ⅱ、運動器損傷の検査・測定法実習Ⅱ／③駒澤大学経済学部経済学科卒、国士舘大学大学院スポーツシステム研究科修士課程修了、東京医科大学大学院医学研究科健康増進スポーツ医学専攻博士課程修了、帝京大学医療技術学部准教授／④博士(医学)(東京医科大学)

ひたすら「勉学」に
励んでください

橋本 俊彦

(はしもと としひこ)

保健医療学部
整復医療学科教授

研究テーマ：スポーツにおける関節外傷・障害の診断・治療・予防。受傷機転から予防対策を導ける様に、本学において研究を進めたいと考えています。

学生時代の思い出：高校時代は、昭和の非科学的なラグビー部に在籍していました。その頃から、尊敬する人はJean Pierre Rivesです。大学でもラグビー部に在籍し、思いのままに10年程プレイしたために、頸胸腰椎、両肩鎖関節、両膝関節、両足関節に問題を抱えています。破綻した関節は改善することはなく、予防が重要だと身を以て理解しています。

日体生へひと言：寝る間を惜しんで勉学に励んで下さい。

こんな人(趣味)：ガーデニング、スキー

①石川県／②整形外科、スポーツ整形外科、医学概論／③金沢医科大学医学部卒、東京女子医科大学附属リウマチ痛風センター整形外科局、早稲田大学スポーツ科学学術院講師、首都大学東京 客員教授／④博士(医学)(東京医科大学)

充実した学生生活となることを
祈る

平沼 直人

(ひらぬま なおと)

保健医療学部
救急医療学科教授

研究テーマ：善きサマリア人法を研究・立案し、本学発の法律として成立を目指しています。柔道整復師法を総合的に研究し、本学刊行の書籍として同法の体系書(基本書)の発行を展望しています。

学生時代の思い出：好きなことをして、自分の適性を見つけるのに時間を費やしました。あてのない苦しい時代でしたが、学生時代の経験により今の自分があります。

日体生へひと言：本学で学ぶということは、特別なこと。ナンバーワンか、オンリーワンか。少年老い易く学成り難し。充実した学生生活となることを祈っています。

こんな人(趣味)：ゴルフ。プレーはもちろん、ゴルフの物理学やスウィング理論に興味があります。

①東京都／②医学概論、医事法、救急医学／③東京大学文学部哲学科卒、早稲田大学大学院法学研究科修士課程修了(法学修士)、弁護士、一般財団法人日本救急医療財団理事、賠償科学副編集委員長／④医学博士(昭和大学)、法学修士(早稲田大学)

夢をかなえるために
プラス思考で行動しよう！

横田 裕行

(よこた ひろゆき)

保健医療学部
救急医療学科教授

研究テーマ：①重症頭部外傷、脳血管障害、および心肺停止後全脳虚血病変の病態と治療、②重症頭蓋内病変後の脳死の病態と生前意思としての脳死下臓器提供システムの研究、③臨床倫理

学生時代の思い出：レギュラーにはなりませんでしたが、クラブ活動としての軟式テニスからチームワークの大切さを学び、体力と気力を身に付けることができました。また、医学部6年生の時に同級生を頭部外傷で失い、重症頭部外傷の治療をライフワークとすることを決めました。

日体生へひと言：4年間の大学生生活、その後の人生で自分が何をを目指すか、そしてそれを実現するために何をすべきかいつも考えましょう。そのような君を誰か必ず見ている。いつもプラス思考で!!

こんな人(趣味)：鉄道の旅、トレッキング、B級グルメ

①茨城県／②外傷学、蘇生学、倫理学(生命倫理、臨床倫理、研究倫理)／③日本医科大学医学部卒、同大学院脳神経外科学、日本医科大学大学院医学研究科救急医学分野教授、同附属病院高度救命救急センター長、中国蘭州大学第一医院客員教授、一般社団法人日本救急医学会前代表理事 現監事、一般社団法人日本在宅救急医学会代表理事／④医学博士(日本医科大学)

行動に責任をもって
多くのことにチャレンジを

渡邊 学

(わたなべ まなぶ)

保健医療学部
整復医療学科准教授

研究テーマ：身体の構造とアライメントそして身体動作の3つを基盤とする考えを軸とし、運動器における障害予防をテーマにトレーニング方法の研究をおこなっています。

学生時代の思い出：高校までサッカー部で部活動中心の学校生活を送っていました。高校の時に出会ったトレーナーの方の言葉や活動に心奪われ、現在の道に進むきっかけとなりました。専門学校ですが、理学療法士を目指した4年間で、かけがえのない友人たちとも出会い切磋琢磨した充実した学生時代を過ごしました。

日体生へひと言：大学生活では、かけがえのない時間と友人を手に入れることができます。自分の行動に責任を持ち、多くのことにチャレンジしてください。日体大はそれができる大学です。将来の目標を見つけ、充実した学生生活を送ってください。

こんな人(趣味)：マラソンが趣味で年に一回、ウルトラマラソンに挑戦しています。

①静岡県／②リハビリテーション・アスレティックリハビリテーション論、解剖学(運動器解剖)／③東都リハビリテーション学院理学療法学科卒、国士舘大学大学院スポーツシステム研究科修士課程修了、国士舘大学大学院スポーツシステム研究科博士課程修了、国士舘大学体育学部附属体育研究所研究員、東都リハビリテーション学院理学療法学科専任教員／④博士(体育科学)(国士舘大学)



今だからできる事・今だからやるべき事 STAY HOME期間中の取り組みを紹介

STAY HOME

